

科目名	地域経済学		
授業形態	講義	学年	2
開講時期	2023年度 前期	単位数	2
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	<p>この授業では、はじめに地域経済の理論を学ぶ。地域には、様々な違いがある。地域間の違いがなぜ生じるのかを概説し、その違いを踏まえた上で、地域が発展するためにはどうすれば良いのかを経済学の観点から学ぶ。次に、過疎化や高齢化といった地域経済が抱える問題を整理し、それらに対してどのような取り組みが行われているのか（または今後行うべきか）を、事例を交えながら学ぶ。また、地域づくりの新たな方策として、幸福度指標を用いた地域づくりや地域通貨の取り組み等を概観する。</p> <p>授業を通して、地域経済を分析するための知識を修得し、それを実際の地域の分析に応用できるようになることを目指す。</p> <p>キーワード：地域間格差、地域発展、地域間交易、産業連関</p>		
1	<p>イントロダクション：地域経済学とは何か</p> <p>日本の地域間には、所得水準や産業構造、人口構成などにおいて大きな違いがある。この回では、日本の地域間にはどのような違いがあるのかを概観し、この授業で学ぶ内容を説明する。</p>		
2	<p>地域経済の成長</p> <p>発展する地域とそうでない地域があるのはなぜだろうか。また、どうすれば地域経済を成長させることができるのだろうか。この回では、これらの問いに答えるため、地域経済の成長理論について学ぶ。</p>		
3	<p>地域間格差</p> <p>地域間の成長には差があり、結果的に地域間に格差が生じる。ただし、長期的には地域間の格差は縮小してきた。この回では、なぜ長期的に地域間格差は縮小するのか、そして縮小しても依然として格差が存在するのはなぜかを考察する。</p>		
4	<p>地域間格差</p> <p>地域間の成長には差があり、結果的に地域間に格差が生じる。ただし、依然として格差があるものの、長期的には地域間の格差は縮小してきた。この回では、なぜ長期的に地域間格差は縮小するのかを学ぶ。</p>		
5	<p>地域間交易の理論</p> <p>地域によって、産業構造は大きく異なる。この回では、なぜ産業構造が地域によって異なるのかを地域間交易の理論から考察する。</p>		
6	<p>産業の立地</p> <p>産業構造を決めるのは、地域間の交易だけではない。企業が立地を決めるときには、製品や原材料の移動コストなども考慮するはずである。この回では、企業がどのように立地を決めるのかを詳しく学ぶ。</p>		
7	<p>地方都市の内発的発展：石川県金沢市</p> <p>外からの投資や企業誘致による発展を外来的開発と呼ぶのに対し、地域が主体的・内生的に発展することを内発的発展と呼ぶ。この回は、内発的発展のモデルとされる金沢市が、どのように発展してきたのかを学ぶ。</p>		
8	<p>農村リゾートと複合的発展：大分県湯布院</p> <p>バブル期には多くのリゾート開発が行われたが、その多くは失敗に終わった。その中で、大規模開発を行わず、持続的に発展してきたリゾート地として、大分県湯布院がある。この回では、湯布院の発展について学ぶ。</p>		
9	<p>知識経済と地域経済：シリコンバレー</p> <p>世界的な企業を数多く生み出し、今も世界のイノベーションを牽引するのがシリコンバレーである。この回では、シリコンバレーではなぜ多くの革新的な企業が生まれるのかを考察する。</p>		
10	<p>幸福度と地域政策：ブータン、東京都荒川区</p> <p>多くの人にとって、「幸せ」に生きることは人生の大きな目標である。幸福度を国家や自治体の政策に活かしているのが、ブータンや東京都荒川区である。この回では、幸福度をどう測るのか、それをどのように地域政策に活かすのかを学ぶ。</p>		
11	<p>地域通貨による地域活性化</p> <p>地域内の助け合いや交流、地域活性化を目的として発行される、その地域のみで流通する通貨のことを地域通貨という。地域通貨は2000年代にブームを迎えた後、衰退したが、昨今再び注目を集めている。この回では、地域通貨の仕組みや昨今の地域通貨の取り組みについて学ぶ。</p>		
12	<p>産業連関分析（1）産業連関表とは</p>		

	「イベントの経済波及効果は何億円」という数字は、どのように算出されるのだろうか。この回では、経済波及効果を算出するために必要な産業連関表の基礎を学ぶ。
13	産業連関分析（2）：経済波及効果を算出してみよう この回では、産業連関表からどのように経済波及効果が算出されるのかを学ぶ。また、都道府県の産業連関表を使って、実際に経済波及効果を算出してみる。
14	地域経済の分析：地域課題の解決策を考える この回では、地域を分析し、課題の解決策を考える方法のひとつとして、SWOT分析を紹介する。また、この授業のレポート課題の作成に向け、レポートの書き方について学ぶ。
15	レポート課題のプレゼンテーション この回では、各自がレポート課題で取り組んでいる内容について発表してもらおう。各自のレポートをより充実したものにするを目的に、学生同士がコメントし、意見を出し合う。

教科書

タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年

特定の教科書は指定しない。講義でプリントを適宜配布する。

参考書	大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編 『日本の幸福度』 日本評論社、2010年 河邑厚徳+グループ現代 『エンデの遺言』 講談社+アルファ文庫、2011年 佐藤泰裕 『都市・地域経済学への招待状』（有斐閣ストゥディア） 有斐閣、2014年 中村剛治郎編 『基本ケースで学ぶ地域経済学』（有斐閣ブックス） 有斐閣、2008年 山田浩之・徳岡一幸編 『地域経済学 第3版』（有斐閣コンパクト） 有斐閣、2018年
------------	--

成績評価

評価方法	割合(%)
レポートとそのプレゼンテーション	50
期末試験	50

学習到達目標	この授業では、以下の3点を到達目標とする。 ①地域間になぜ違いがあるのかを経済学の観点から説明することができる。 ②特定の地域について現状を調べ、特徴と課題を説明することができる。 ③地域経済が直面する課題について、具体的な解決策を提案することができる。
先修条件	ミクロ経済学基礎を履修中であることが望ましい。
実務経験	
その他	私語など、授業と関係のない行為は一切禁止。